

平成30年度 京都府立綾部高等学校（本校全日制） 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（計画段階）

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<ul style="list-style-type: none"> ・学力の向上と希望進路の実現 ・基本的な生活習慣の確立 ・基本的な人権を尊重する態度と豊かな人間性の育成 ・健康及び体力の維持・向上 ・地域社会から信頼される学校づくりの推進 	<p>【本校】</p> <p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆進路指導面においては、府実カテストや模擬試験のデータを分析し、学年会議や教科会議等で活用してもらえることができたので、より一層学校全体で学力向上に取り組める機運を高めるきっかけづくりができた。さらに、国語、数学、英語の三教科で添削指導等を取り入れたことにより、これまで以上に丁寧な指導ができるようになり、大学受験を希望する生徒の学習意欲を向上させることができた。 ◆京都フロンティア校地域創生推進校として「綾部学」の取組と高校生伝統文化事業の文化歴史推進校での取組を並行して実施することにより、地域の歴史と伝統への理解を深めるとともに地域に貢献できる生徒の育成を図ることができた。 ◆部活動においては、運動部では、硬式野球部が春季京都府高校野球大会で63年ぶりに決勝戦まで進出し、さらに第99回全国高校野球選手権京都大会でも42年ぶりにベスト4入りを果たすことができた。また、カヌー部は世界大会をはじめ全国高校総体と国民体育大会にも出場し、男子ソフトボール部も本年3月に高知県で開催予定の全国選抜大会に出場することができた。文化部においても、書道部が全国高校文化祭に出場し、放送部も本年8月に長野県で開催予定の全国高校文化祭に出場することになった。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆今年度も教育活動アンケートで学力向上に向けた取組が不十分な点について指摘いただいているので、その点については、最重要課題として改善できるよう学校全体で組織的に取り組む必要がある。 ◆2学期に学校行事が集中し、落ち着いた授業に臨むことができない環境となったことから、来年度は学校行事の精選とともに、落ち着いた授業に臨むことができる環境づくりとともに授業数確保に努めていく必要がある。 ◆インフルエンザによる欠席者が例年より多く、2クラス学級閉鎖をすることになったので、生徒自身の健康管理能力の向上とともに学校としての感染拡大防止に努め、来年度から実施される学校欠席者情報収集システム導入に向けての準備も進めていく必要がある。 ◆自転車乗車時のマナー向上と交通事故防止に向け、PTA等と連携した継続的な取組が必要であり、生徒の規範意識の向上や通学時の列車乗車マナー向上等、更なるシティズンシップ教育の継続的な取組も必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着と探究活動を取り入れた授業の展開 ・ICTを利用した授業を推進 ・系統的・組織的な進路指導体制の確立 ・4S(整理・整頓・清潔・習慣)運動を推進 ・部活動の活性化 ・地元小中学校及び大学との連携事業を推進

分掌 教科	項目(重点目標)	具体的方策及び数値目標	評価	成果と課題
1 組織・運営	教職員の連携を強化し、組織的な学校運営をすすめる。	<ul style="list-style-type: none"> 教職員がチームとして各自の役割や責任を自覚し、選択と集中を明確にして業務に当たる。 教育活動アンケートの「学力が向上していると思う」割合を生徒・保護者ともに20%以上とする。 		
2 総務企画部	広報活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 学びの詳細を伝える情報発信と、受験生の興味喚起の機能を高めるwebサイトを構築する(週2回以上更新)。 「綾高だより」で在校生の生活を視覚的に伝え、高校の特色についての認知度を高める(年8回発行)。 		
3 教務部	基礎学力の定着	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の基礎学力の定着に向けて、教科担当部会議等で日々課題・週末課題を課すように徹底する。 各教科ICT・探究活動を取り入れた授業を2回以上公開するように、働きかける。 		
4 生徒指導部	基本的な生活習慣を確立する	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶や入室マナー、正しい言葉遣いを身に付けるように指導する。 遅刻をなくすため、スタンプラリーと入室許可証のシステムを実施し、学校(担任)と家庭が連携して指導する。(遅刻5回以上学期3名以内) 		
5 進路指導部	希望進路の実現に向けた確かな学力の育成	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の定着とそれを応用できる学力の育成に向け、土曜講座や長期休業中に実施する特別進学講座の有効な活用を図る。 模試データの分析とその活用を充実し、個々の生徒の学習課題の解決を図る。 		
6 保健部	たくましく健やかな体をはぐくむ。	<ul style="list-style-type: none"> 保健だよりを年間10回以上発行し、生徒の健康への意識の向上を図る。 サーベイランス等を活用して感染症の予防を徹底し、学級閉鎖を0とする。 		
7 第1学年部	基本的な生活習慣の確立と規範意識を高める。	<ul style="list-style-type: none"> 家庭と連携し、無断遅刻、欠席をゼロにする。 掃除当番に頼らず、気がついた者が教室を清潔にし、学習環境を整える。 		

分掌 教科	項目(重点目標)	具体的方策及び数値目標	評価	成果と課題
8 第2学年部	基本的な生活習慣を確立させる。	携帯電話等の違反利用者の根絶を目指し、「授業」を大切にす姿勢の徹底を図る。		
		4S(整理・整頓・清潔・習慣)の視点に立ち、教室美化を含め、学びに向かう「学習環境」をつくる。		
9 第3学年部	希望進路の実現	二者面談や三者面談を密に行い、生徒自らが希望進路を探索し、センター試験受験者50名以上、国公立大学受験者20名以上を目標に、第一希望を諦めさせない指導を行う。		
		各模擬試験のデータ分析を行い、教科担当者会議や進路検討会議などを活用して教科担当や進路指導部と密な連携を図って情報を共有し、生徒一人ひとりが最善の進路選択をし、希望進路を実現させる。		
10 事務部	適正な事務処理の遂行と教育の諸条件整備	短期経営目標に基づいた予算の計画的・効率的な執行を行う。		
		各分掌部長や教科主任と連携し、ICT・探究活動を取り入れた教育活動を推進する。		
11 国語科	学習習慣を確立させ、基礎学力の定着を図る。	計画的継続的な小テストや課題への取組を通じて、家庭学習に主体的に取り組めるよう指導する。		
		基本的な語彙力の向上を目指し、日本漢字能力検定の受検を推奨し、準2級合格率50%となるよう支援する。		
12 地歴公民科	基礎学力の定着をはかり、希望進路の実現に努める。	定期的の小テストを実施し課題を与えて、家庭学習の定着化を図る。		
		時事問題や地元の身近な題材を常時取り上げ、生徒が興味関心を示す授業となるように努める。		
13 数学科	基礎学力定着のための家庭学習習慣の確立	各コースの特性に合わせて小テストや週末課題等を行い、日々の学力の定着を図る。		
		授業規律を確保する。		
14 理科	コースに応じた指導の工夫	模試の結果分析を行い、各クラス、一人一人の希望進路実現に向けた効果的な学習指導を行う。		
		各学年団・担任との連携を密にし、各々のクラス・生徒の学習状況に応じた授業を展開する。		
15 保健体育科	授業規律を確立する。	安全面に留意し、挨拶、集団行動等、きびきびとしたはじめのある授業を行う。		
		時間を大切にす意識を持たせ、授業遅刻を年間でのべ10人までにす。		
16 英語科	4技能を統合した授業展開の工夫と研究	大学入学共通テストに向けて、国の動向を把握するとともに、4技能を総合的に伸長するための指導方法を研究する。		
		綾部高校独自のCAN-DOリストを作成・共有し、その活用方法や基準の妥当性について研究や実践を行う。		
17 芸術科	基礎技術を充実させ自ら学ぶ意欲を育てる。	授業時間を有効に活用し、授業規律を大切にす。		
		年度末に授業アンケートを行い、「この1年間で技量を伸ばし、心に残る作品(表現)ができた。」という生徒を8割以上にす。		
18 家庭科	家庭生活の改善・充実・向上を目指す。	家庭生活の中から課題を見つけ出し、学んだことを実生活で生かせる授業を展開する。		
		基礎的な知識や技能の定着を図る。		
19 情報科	情報モラル意識の育成	個人情報の使われ方を通して、自己の個人情報について学ぶ。		
		知的財産権(著作権・特許権など)の歴史を通して、その重要性を理解させる。		
学校関係者 評価委員会 による評価				
次年度に 向けた改善の 方向性				